

感謝報告

ご支援ありがとうございます。

熊本いのちの電話は多くの皆様に支えられています。
感謝をもってご報告させていただきます。

寄付感謝報告

(令和元年6月16日～11月30日)

法人・団体の部

YMCAチャリティゴルフ会 (株)あつまるホールディングス 島田 俊郎 インマヌエル熊本キリスト教会 大村豊法律事務所 大村 豊 (医)菊陽会 菊陽レディースクリニック 島田 清 九州電機工業株式会社 福嶋 邦博 (一財)杏仁会 伊津野良治 熊本製粉(株) 宮本 貫治	熊本第一信用金庫 豊住 賢一 熊本電気鉄道(株) 中島 敬高 (株)熊本ホテルキャッスル 角田 吉顕 香覚寺 小山 一行 (医)孔子会 福田 桐 3.3会 (株)シアーズホーム 丸本 文紀 (株)SYSKEN 及び従業員一同 ダイニング和YA 東京エレクトロン九州(株) 及び従業員一同	(株)トウヤ 東家 恭一 遠山歯科医院 遠山 啓介 (医)徳祐会 やまさき歯科医院 トリプル・ウイン(有) 田中 一美 西田総合保険(有) 西田 和弘 (医)野尻会 熊本泌尿器科病院 野尻 明弘 まつばセレディースクリニック 村本 順一 美里縫製(株) 坂口 敏雄 (株)みどり印刷社 鬼塚 雅洋	(株)みどりや 東 静一 宮川輝之法律事務所 宮川 輝之 (株)三宅保険総合企画 三宅 聡 元田社会保険労務士事務所 元田 克秋 (株)モーターレンフロイデ 郷 宏俊 森山義文法律事務所 森山 義文 有妻総合法律事務所 井上 陽介 匿名 1件
--	---	--	--

(敬称略・順不同)

個人の部

青木 悟子 青木 孝寛 赤星 寛英 伊豆 井上 出井 井上 井上 英	岩上 永島 上村 澄 江崎 みどり 大我 啓 村我 京 小笠原 香 小笠原 嘉	研一 雄一 澄 啓子 澄 啓子 澄 啓子 澄 啓子 澄 啓子	岡本 洋子 田部 久美子 小嶺 正裕 甲斐 圭己 加藤 尚孝 谷 尚孝	河岸 北本 小出 敏清 小郡 和康 小後 藤秀 小後 昭哲	酒井 敏夫 井 孝一 保志 孝和 志子 淑子 中 西 濱 野 村 井 愼 一郎 代 一郎 宏子 信 幸 武 志 充 裕	開廣 堀丸 石 勝美 山 崎 明 宮 崎 文 宮 崎 拓郎	由美子 持永 妙子 山本 セツ子 匿名 勝 美 明 文 郎	持永 瑞恵、摩子 山本 了 匿名 10名
---	---	---	--	---	---	---	--	----------------------------

(敬称略・順不同)

切手、お茶、コーヒー等もありありがとうございました。感謝をもって、ご報告させていただきます。

募金式自販機寄付

(令和元年11月末日現在)

募金式自動販売機設置にご協力いただいている方々

(敬称略・順不同)

(医)愛育会 福田病院 APパーク校町 おおつかの郷 KMバイオロジクス(株) 菊陽レディースクリニック 北熊本乗馬クラブ	(株)九電工 九州電機工業(株) 九州ルーテル学院大学 (医)寿量会 熊本機能病院 熊本県医師会館 熊本市水の科学館	(医)孔子会 孔子の里 金剛(株) (株)SYSKEN 崇城大学 慶賓館 建吉観光土地(株) (株)建吉組	(医)寺尾会 寺尾病院 (医)聖孝会 中村整形外科 和みほいくえん 西日本電材(株) (特非)花織部 不二高圧コンクリート(株)	松尾建設(株) 御船町 湯前町 ルーテル学院高等学校
--	---	--	---	-------------------------------------

サントリービレッジサービス(株)、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)の2社のご協力を頂き、自販機によるご寄付の仕組みを準備しております。各自販機設置者様のご支援と上記2社のご協力に感謝申し上げます。



事務局日誌

令和元年 7月～12月

7月	7日 12日 21日	リフレッシュ研修(26～29期生) 熊本県総合福祉センター 中央競馬馬主社会福祉財団より来局 リフレッシュ研修(30～31期生) 熊本県総合福祉センター
8月	17日 31日	第20回チャリティ公演「華の熊本 城下町めぐり」 森都心プラザホール インターネット相談育成研修(グループSV)
9月	3日 8日 17日 28日	湯前町寄付式自動販売機調印式 第44回日本自殺予防シンポジウム 愛知大会 第36期電話相談員養成講座 前期修了式 研修委員・研修リーダー合同全日研修
10月	7日 20日 24,25,26日 30日	(株)SYSKEN 寄付金贈呈式 インターネット相談育成研修 熊本城ホール 第36回いのちの電話全国研修会おかやま大会 熊本県自殺対策協議会
11月	4日 9日 20日 29日	長崎いのちの電話開局25周年記念式 くまもと市民ボランティア週間 バザー ミニ講座 菊陽町光の森町民センター インターネット相談説明会
12月	7日 11日 13日	全体研修会 熊本県婦人会館 ミニ講座 合志市泉ヶ丘市民センター 東京エレクトロン九州(株) 寄付金贈呈式

毎月10日 フリーダイヤル(08:00～11日08:00まで)

毎月第1木曜日 定例研修委員会、第2金曜日 定例運営委員会

赤い羽根共同募金配分金により作成したものです。



社会福祉法人 熊本いのちの電話

KUMAMOTO INOCHINODENWA

通信 65号 令和2年新年号



我が町の防災対策と いのちの電話

湯前町長 長谷 和人

プロフィール

昭和30年12月11日生 63歳
昭和49年 県立球磨農業高等学校林業科卒業
昭和49年 大蔵省造幣局勤務
昭和50年 湯前町役場勤務
平成20年 総務課課長
平成25年 湯前町副町長に就任
平成31年4月26日 湯前町長に就任

湯前町は、令和元年9月3日、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)と社会福祉法人熊本いのちの電話様との間で、災害対応型自動販売機設置による協定を締結させていただきました。

災害については、私が町長になる前の一職員であった時代に、湯前町で、大規模な水害が発生し、町内の広い範囲で、上下水道が寸断するという辛い経験を致しました。

当時は、災害協定等を結んでおらず、また防災への危機意識も今ほど高くはなかったこともあり、被害が大きくなってしまいました。

そのような経験を経ているからこそ、今年町長となり、町民が安心して生活できるよう災害に強い町づくりを目指していく上で、この災害協定は大変心強いものになりました。

この災害対応型自動販売機は、湯前町内の5ヶ所(役場庁舎、災害備蓄倉庫、保健センター、まんが美術館、ゆのまえ温泉湯楽里)に設置され、大雨、台風、地震等による災害で、避難を余儀なくされた場合に、災害対策本部からの要請に応じて、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)が、自動販売機内の飲料商品を無償提供してもらえる内容となっております。

また、売り上げの一部は、自殺予防を目的にボランティアによる電話相談の活動されている「いのちの電話」様の活動資金として、活用していただくように致しました。

行政の立場からではございますが、一人一人の命を大切にするという観点から、様々な不安や、悩みを抱え、生きる希望や、気力を失いつつある人に、電話を通じて心に寄り添い、その方が持っている生きる力を見だし、自らの力で勇気を持てるような活動に支援できればという想いでございます。また、行政として、そして町長として、我々にできることから取り組んでいきたいと思っております。

近年の気象災害、自然災害が過去に例をみない増え方をしており、災害が起きないことが望みでございますが、飲料水が不足したときは、この自動販売機をありがたく活用させていただきます。

そして、安心安全なまちづくりの基本理念とともに、改めて「いのちの電話」様の意義や、御苦勞を強く認識するとともに、その活動を困りごとや、悩みを持った人々に広げるために、私達がどうしたらいいかを今後も考えていく必要があると思っております。これからも関係機関とのつながりを大切にし、私たちの役割を全うしていきたいと考えております。これからも貴法人の更なるご活躍を祈念しております。



編集後記

最近参加した労働衛生についてのメンタルヘルスの勉強会で、感じたことがある。仕事や職業生活に関する強いストレスに関する調査で、以前は「対人関係」だったものが、現在は「仕事の質・量」「仕事の失敗、責任の発生等」へと変わっているという。ただ、精神障がいのある出来事別決定件数の36%は「対人関係」と多いのも事実である。私たちの相談内容も時代の一面を映している。それを受ける私たちも、時代と共に変化することを求められている。長年受け継がれ、積み重ねられている相談の基本(技術や技法、理論)をベースとして、時代を反映した工夫を加えることで、“今”人生の危機的な状況におられる方々へ寄り添うことを忘れないようにしたい。

社会福祉法人 熊本いのちの電話
事務局

〒860-8691 熊本中央郵便局私書箱155号
TEL096-354-4343

発行人: 福田 桐 編集: 広報委員会

熊本いのちの電話

相談電話 096・353・4343

第36回いのちの電話 相談員全国研修会おかやま大会

(相談員A)



2019年10月24日～26日、岡山プラザホテル並びに岡山国際交流センターにおいて電話を取る相談員のための研修が開催されました。今回は500名以上の参加で講演・分科会での学びは大変貴重な機会となりました。講演では「日本は自殺者数は減っているが一方で若者の自殺率はあまり変わっていない。この現代に一体どのような生きにくさがあるのか。近代になって、よりコミュニケーション能力を求められ合理化された社会のなかでスピードと効率を求められるようになった。また地域や親族などの結びつきが弱くなり、ネットなど非対面の世界が拡大したことがあげられる。学校では人間関係で躓きやすくその後社会にでて仕事の面でうまくいかないと自信を失い悪循環が起こる。」とのお話がありました。若者の支援をどうやって考えて行くか・どのような対応がより適切か、が今回の一つのテーマでした。「自分に価値はあるのだろうか、置いていかれる、見捨てられる」早すぎる社会変化と複雑になったコミュニケーションの中でうまく生きていけるのかという不安が若い世代に広がっていることを改めて感じました。一方で、若い方々が感じている悩みや不安を理解し問題解決するためのケーススタディや、アウトリーチと呼ばれる訪問支援型の実例なども詳しく紹介されました。実際に支援の中で立ち直り就職や結婚などまで到達された方もあり、そのような方たちが今度は支援者となって繋いでいく。行政・福祉・民間の連携によってすでに成果が上がっている様子は同じ支援に携わるものにとってマインドや心構えの根幹において非常に刺激を受けるものがあり、社会全体が若者支援・自殺予防に強い思いを向けている流れをありがたく思いました。また、今回の全国大会では第16回アジア太平洋地域電話カウンセリング国際会議も同時開催され台湾と韓国においていのちの電話の活動報告を頂きました。台湾ではインターネット相談の充実、韓国では福祉や教育機関との連携、勉強会やウォーキング大会など積極的な活動。国境を越えて世界中でのいのちの電話の活動が活発に行われている様子はとても頼もしく感じました。

第44回日本自殺予防シンポジウム愛知大会

2019年9月8日に参加して (相談員I)



「脳科学が語る『生きる』」と題した基調講演は、人の脳の仕組みや心の動きから自殺予防を考えるという講話だった。自殺と脳科学は一見繋がりがなさそうに見えるが、脳は私たちの知らない部分で意外な動きをしている。脳を学ぶことは心を知ること、自分自身のこと、生きること、そして死ぬこととは？という問いに繋がるという話は興味深かった。心は多数の心の要素の集合体で、死にたいと口にしても心の全てが死にたいと考えているわけではないそうだ。私たちの電話対応も「死にたいと思う心以外の心」に真摯に耳を傾けることだと改めて思った。それはとてもデリケートな部分であり、あくまでもかけ手の心の流れに、こちらが寄り添っていくことが大切なのだと感じた。

シンポジウムでは「生きづらさを考える」のテーマで、パネリストから(介護殺人、虐待、自死遺族)の現状が発表された。介護殺人の背景は金銭的に追い込まれる人、将来に絶望する人と様々である。社会的な繋がりから孤立させない仕組みを作り、「見えていますよ」「心配していますよ」というところから具体的な支援までいろいろなアプローチが必要で、安心してSOSを発信できる社会でなければいけない。その役割の一つとして「いのちの電話」もあるのだと思う。児童虐待やDVについては、生きづらさを抱える人の状況や心理、支援体制について詳しく知ることが出来た。メディアが伝えているように児童虐待の関連機関の連携不足など問題山積のようだが、後遺症という更なる不幸な連鎖を生む場合もあるので体制づくりを急ぐ必要がある。また、自死遺族の生きづらさは、近い人を失った悲しみと共に何故？もし〇〇していたらという後悔や喪失感であり、その心情は計り知れないものがあると痛感した。近年、若者世代の自殺が増え年代毎にその悩みも変化し、今の時代の生きづらさを如実に表している。だからこそ、受け皿がこれからはますます必要になっていくだろう。電話離れの世代に、「いのちの電話」の相談員のできることは何か？と改めて考えさせられた。全国のいのちの電話にはメール相談やチャット相談がある。これらも模索する必要があると思う。

特別講演「スマホの向こう側」 ～インターネット空間の中で苦しむ子どもに向き合う～

(相談員M)

講師：田中慎一郎氏(熊本市教育委員会事務局・総合支援課学校サポート班・指導主事)

日時：2019年10月20日(日) 場所：熊本城ホール

現場感覚があり、論理的観点と整理力のある方からのお話は、迫力と課題の説得力が違う。

今の子どもたちと自分が子どもだった頃とは、生活インフラ(水道、電気、通信)、生活(自然)環境、教育、近所付き合いなどのあり様は大きく変わった。特に情報量は比較にならない。情報量が増え、理解力が向上すると、それだけ多様化への許容幅は大きくなるが、最近のキーワードでいえば「生きづらさ」を助長しているように思える。

先生のお話の中で「誰かと接して、面倒が起こると大変だから人とつきあわない方が楽だよ」とか、「ネットが私の居場所」ということには胸が痛い。今の大人社会の(妙な)ものわりのよさが、子どもたちの生きる力を削いだり、「自分」を確認しづらくするような結果となっているようにも思える。

「死にたい」という発言は、積極的な生きることに対する否定的な言動(意思表示、「なぜなら」)である、という。対処するドアを探すことができそうだが、「消えたい」は、向かう相手がいなくなってしまう。幸せになっていないので。結果、消えたい、この場所からいなくなりたい。自分を責めてしまう、ということが起こっている、という。

「いのちの電話」では、掛け手が語る内容から、掛け手の今を想像し、その「人」が訴えたいことや、課題、ニーズについて一緒に整理していく。その対応を通して、一時的であったとしても今に「折り合い」をつけ、生き続けることができるように援助することにあると思う。今日の先生の言葉を借りると、電話を通して「安心、安全な環境の中で悩んでもらい、感情の整理をし、適切な人への依存が行える」場所を提供するということになるのだと思う。その基本形は子どもたちへの対応と共通することだが、大人とは異なる「子どもならではの」こととして理解する必要があるのだと感じた。また、「いのちの電話」が子どもたちの味方であり、いつも居て、自分のペースで話せて、小さな悩みのお話でも聴いてくれる、社会の中の「よき理解者の一人」であることを知ってもらい、困ったときに利用してもらえよう、特に「ぼくの相談に乗ってくれる人、手を挙げて・・・」という今の子どもたち特有の関係性の作り方に配慮しつつ、子どもたち視点でハードルを下げる努力をしていかなければならない。



第20回 熊本いのちの電話・チャリティ公演 華の熊本 城下町めぐり

2019.8.17くまもと森都心プラザホール

熊本いのちの電話恒例のチャリティ公演が多くの入場者を迎え開催されました。幕開けは熊本県太鼓連盟合同曲「肥後大地の詩」。和太鼓で表現される勇壮で壮大な阿蘇の風景が会場を城下町めぐりの旅に誘います。次に吟剣詩舞道総連盟の子どもたちの伸びやかな詩声が熊本城から天草へ球磨川を下り水前寺成就園そして細川加羅奢婦人へと案内します。さらに熊本国府高校吹奏楽部の「浪漫鉄道」の調べにのり舞踊団花童が舞う優雅な情景に熊本の城下町めぐりをしました。圧巻はフィナーレです。会場は吹奏楽部の演奏「故郷の空」、「パプリカ」の曲にのり、舞、歌い、踊りで会場は一体となり夏の一日を楽しみました。

出演してくださった方々は、このステージでの演技・演奏のためにおおくの時間をかけそして沢山の心を込めてくださいました。また、今回も多くのスタッフの方々が、懸命に活動してくださいました。おかげ様で盛況のうちに終わることができました。ご協力を頂きました関係各位の皆さまに感謝致します。

